

## 知的障害を有するアスリートの参加に関するIPCの決定

(本稿は掲題に関する IPC のプレスリリース (11 月 21 日付) の全訳です。)

マレーシア、クアラルンプールにおける国際パラリンピック委員会 (IPC) 総会において、知的障害を有するアスリート (以下 ID アスリート) の競技会 (パラリンピック競技大会を含む) への復帰を認めることが本日決定されました。

IPC 会長 Philip Craven 卿は、「本日の成果はスポーツ統治と科学界とのたぐいまれなすぐれた協力の結果であり、私は、関係されたすべての方々、とりわけ過去 2 年間寄与、献身いただいた科学者の方々に感謝したい。

私は、すべての ID アスリートが将来の競技会において世界クラスの成果の達成に成功するよう祈念します。」と述べました。

この決定により、ID アスリートは 2 段階のプロセスによりパラリンピック競技への参加が可能になります。第一に、クラス分けの手続きには INAS-FID 国際参加資格委員会 (International Eligibility Committee) における審査のために適切な医療ファイル (medical files) の提出が必要となります。この委員会によって申請が承認されると、INAS-FID から当該アスリートに対して、そのアスリートは「参加資格あり」と認められ、クラス分けプロセスの次の段階に進むことができること記載された書状が発給されます。その後、そのアスリートは当該競技を管轄する国際競技連盟によって任命されたクラス分けパネルによる実地テストを受けることとなります。実地テストは競技知能 (sports intelligence) に的を絞り、その特定競技に関連するテストが含まれます。

テストの成績は競技ごとの最低障害スコア (minimal disability scores) と対比して評価され、当該アスリートには特定競技において ID アスリートに適用される競技クラスが割り当てられます。

今秋の時点では、競技ごとの最低障害スコアは未だできていません。これには 2009 年 INAS-FID Global Games およびその他の競技会から集められたすべてのデータの完全な分析が必要となります。この基準は 2010 年半ばごろには出来上がると予想されます。

ID アスリートクラス分けシステムは、IPC クラス分け規程に従って策定されるものであり、根拠に基づいた方法によるものであることが保証されます。また、このことは ID アスリートがある特定の競技への参加を認められる権利に関する決定を強化するものでもあります。

その結果、ID アスリートは今後クラス分けシステムが実施可能になり次第国際競技連盟の裁量によって競技への参加資格が認められるようになります。将来の競技会において ID アスリートの参加を目標とするパラリンピック競技は上述したモデルに基づいたクラス分けシステムを用意すべきです。

INAS-FID 会長 Bob Price は、「当然ながら、私は投票の結果に喜んでいますが。2000 年シドニーから 9 年間、彼ら自身には何も責任はありませんが、ID アスリートはパラリンピック競技大会およびその他の IPC 公認競技会から除外されてきました。

今回の決定はこの不幸なエピソードに終止符を打つものであり、ID アスリートをパラリンピック・ファミリー内のふさわしい場に復帰させるものであります。私は、共同作業グループとこれに関係した研究チームの方々に深甚なる謝意を表します。また、ID アスリートが 2012 年のロンドンにおける世界の舞台で競技することを楽しみにしています。」と述べました。

競技会で実施される競技は既定の条項に従って決定されます。これは当該競技会の実施競技 (medal events) および関連する参加資格基準(qualification criteria)の決定のためのものであり、ほかのいかなるアスリートの競技用のものとも異なるものではありません。ID アスリートの参加によって、2012 年ロンドンパラリンピック競技大会の競技において他のクラスからのアスリート数が減少することはありません。

(注 : INAS-FID = International Sport Federation for Persons with an Intellectual Disability 国際知的障害者スポーツ連盟)